

製煉諸法

桂露心經

洋学文庫
文庫8
J162





製煉諸法

○コルドヒウル製方

アブラニド四割

糖一分五厘

フロドアートル五分

右三味調勻磁器或ハ鉄器ニ入レ火上シ能攪
 和シ色黒キニ至ルヲ度トナシ火ヲ下シ疎末
 トナシ陶壺ニ入レ陶物徳利最モ是也猛火ニ上シ須臾
 メ之ヲ試ルニ鉄箸ヲ以シ箸尖ニ触附處ノ薬
 品ニ火ノ移ラ度トナシ火ヲ下シ硝子瓶ニ入
 レ置○此品空氣ヲ受ケ火ヲ移ス者エエ平生
 瓶口ヨリ空氣ノ入ラサル様ニナスヘシ



○トンドルフリードル製方

白銀一正物揮發硝石精ニヲアルコールハ十

先硝石精ヲ廣口ノ硝子瓶ニ入レ銀末ト合シ銀末消尽スル時アルコールヲ注スレハ影シク突烟ス但シアルコールノ注入漸クニ劇シク沸騰セサルヲ要ス○總時煮沸セシメ水適宜ヲ注シ其時瓶底海綿ノ如キ者沈残スルヲ紙ニテ瀝過シ乾燥スレハ則チドンドル也

○幾那塩製方

其レ幾那塩ヲ製セント欲セハ先ツ良性灰白ニ



シテ手指ノ少サナル幾那ヲ三十二ヲ取り細末トナシ又別ニ尋常ノ硫酸一ヲ半ニ水百六十又ヲ和シ稀硫酸トナシ之ヲ擴キ蒸發器ゴツタ産器ヲ用ニ移シ前ノ幾那末ヲ投シ四分時間攪擾ス且ツ火ヲ借ルト蚕氏ハト人ノ百六十度百八十度ニ過クベカラス○其合劑ヲ幘ニ張タル續布帛ニ登セ漏滴セシメ又其遺殘ノ渣ヲ絞リ取り前ノ如ク稀硫酸ニ混和シ漏滴スルヲ二次ニ至ル然レ第二次ニ於テハ硫酸一ヲ用ニ第三次ニ於テハ半ヲ用ユヘシ○三四絞リタル

液ヲ皆混和シ三分ノ二ヲ蒸発シ冷定シ緻密ナル毛布ノ袋ニ入レ瀝シテ透明ナラシメ之ニ清製炭酸ポットアス或ハ曹達ノ溶解ヲ滴沈澱物ヲ作ラシム其ポットアスヲ溶解スルニ味ヲ見テ之ヲ作ルヘシ○其沈澱物ヲ悉ク取り錫器ニ納ル者沸セサル許ニ煖メ温ナルニ衆メ沈澱器ニ移ス片ハ冷ルニ從テ復沈澱物生スル之ヲ十二時間静定シ置キ其上清透明ニ濃赫色ノ液ヲ去リ慎ニ張タル白布上ニ瀝紙ヲ処キ其上ニ此沈澱物ヲ舂セ冷水ニテ洗滌シ^{糊藥ヲ土器或}

ハ大塊ノ結雨土上ニ処キ凝温中ニ於テ多ク水分ヲ脱スヘシ○其既ニ乾キタルヲ取り細末ニナシ尋常ノ稀硫酸硫酸一分ニ水三百ヲ止ス攪擾ス今シニソニ子ヲ沈澱物ヨリ分利セシムルカ為ニ甚稀ナラサル稀硫酸ヲ一次ニ加フヘシ左ノ方ヲ用フルハ殊ニ之ニ優レリトス其乾キタル粉ニ一比或ハ二比ノ稀硫酸ヲ注キ手ヲ止メス混動メ遂ニ冷定シ試ミラツクハ紙ヲ入レニラツクム^{草汁ヲ以テ染タル紙}稀硫酸ノ有無ヲ徴スヘシ○復夕稀硫酸二比ヲ注

キ飽カシメ復^ハ沈^ハ澱^ハ物^ヲ乾^シ注^ク者^ハ恐^ク殊^ニ常
ノ温度ニ於^テシ^ニ子^ニ稀^酸ト包^合セサルニ
至^ルマ^テ再^三稀^{硫酸}ヲ注^クベシ是^亦フ^ラクム
トス紙^ヲ以^テ徴^{スル}者^{ナリ}○シ^ニ子^ヲ能^ク
ク溶解^{スル}ニハ其^合劑^ヲ煖^ムヘシ然^レ火^度
ノ烈^シキヲ禁^ス○斯^ノ如^ク製^成スル片^ハ其^液
黄色^様ニメ透^明トナル之^ヲ純^粹ナラシムルニ
ハ其^液三^分ノ二^ヲ蒸^発シ稍^色アル分子^時トメ
ハ硫酸^加ル基^結晶^メ現^ワル此^復タ精^製ポツ
トア^ス或^ハ曹^達ノ溶^液ヲ滴^スレハ復^タ沈^澱ス

此^者タルヤ^{硫酸}加^ル半^ハ幾^那ヨリ分^解スル加
ル基^ニメ硫^酸ニ飽^キ多^分ハ水^中溶^解シアル者
又^半ハ沈^澱ノ為^ニ用^ヒタルポツトア^スト幾^那
ノ加^ル基^ト親^和シ不^潔状^ヲ現^ハス者^{ナリ}○此
ノ如^ク不^潔状^ヲ現^ハスハ^アメ^リカ^及ヒ^バレ^ー
ス^産ノポツトア^ス又^尋常^ノポツトア^ス皆^然ル
者^{ナリ}其^液ヲ清^淨ナラシムルニハ^チル^レ
キ^コール^ヲ加^工沸^騰セシムルヲ最^良トス
○番^木鼈^元素
百^尔列^亥尔^ニ加^片搭^ニ名^人ナル者^千八^百十^八年

ニ於テ初テ之ヲ發明ス是則チ番木鱉子ストラ
ハバイクナチ子及ヒストスフロフルナホヨリ
製スル者ナリ其後印控亜人ハ毒箭ニ之ヲ用ヒ
ユバステラヨク製ス○此元素ハ前ノ三種ヨリ
製シ蓋シ又後ノ一品ヨリモ製ス皆イカフエル
酸ヲ合併スル者ナリ○其製法種々アリト虽予
ハ辺里人ノ法ヲ良トス○其法ニ曰ク番木鱉子
末ヲ取テ數回煎シ其煎液ヲ集合シ舍利別ノ稠
ニ至マテ蒸發シ少シク過量ノ石灰水ヲ加フ○
此イキルニアルコイルヲ注キ浸出スルヲ數回

ニ至ル其溶液タアルコイルニ溶シヲ濾過シ蒸餾ス
ル片ハ其元素アルコイル共留器ニ移ルナリ其
物アルコイル中ニ結晶シ清潔トナル若清潔ト
ナラサル片ハ其結晶甚稀消酸ニ溶シ血炭ヲ扱
シ其液ヲ清潔ナラシメ其上清ヲ取リアムモニ
アラ入レ沈澱セシム又其結晶ヲ冷水ニテ洗ヒ
アルコイルニ溶シ結晶セシム○ストリシ子
ニ混和スル所ノフリシ子ヲ除カント欲セハ
アムモニアヲ以テ沈澱シタル稀冷ノ酒精ヲ注
キ浸出セシムハシ是其酒精ハフリユシ子ノ

ヲ溶化スル者ナリ○若シストリシ子ニ酸ヲ含
ミシ全ク中性塩トナルキハ稀酸ヲ注キ飽シメ
徐々ニ蒸發セシム○此中性塩ハ水ニ尤モ溶ケ
易ク多クハ結芭ス其味甚タ苦シ○ストリシニ
一子ハ猛烈ノ毒藥ニメ微量与フルモ死ヲ起ス
ナリ八分ハニ与フルキハ猛犬死ス○四分ハヲ
用ヒテ人身ニ偉効アリ○殊ニ此劑野タニユス
ニ効アリ故ニ^イア健^キ實^チハ之ニテ二子ノ名ヲ命セ
シトナリ

○舛鉄塩製方 一名ハ
塩酸鉄

鉄屑一多長頸ノ硝子壺ニ入レ煮テ火内ニ置キ
二十多ノ水ヲ灌キ塩六多ヲ灌キ鉄十分ニ溶解
鉄溶解ス再ヒ塩酸二多ヲ注キ沸起スル迄ニ温
メ硝石酸ヲ適宜ニ滴スルテ全ク沸起止ムヲ以
テ度トス此液ロトプロサニテ得ル○此液ヲ陶
器或ハ硝子壺ニ入レ初メハ武火ヲ以テ其量半
ヲ蒸發シ其後文火ニ上セ硝子棒ヲ以テ搔キ是
ヲ寒冷ナラシメハ凝固スル如ニ至ル器火ヨリ
下シ藥物ヲ擾和シ全ク凝固セシメ温ナル硝子
器ニ入レ固封シ貯フ舛鉄塩一多ニ水八多ヲ如

工塩酸適宜ヲ滴シタル者則ケ是レ收斂鉄塩ナ
リ

○舛鉄塩製方

鉄末 八匁 海塩精 八匁 水 如サ四匁

右先ツ海塩精八匁ニ水廿四匁ヲ加工土器ニ入
レ火ニ上セ少シ煖マリタル時鉄末少シ宛入
レ沸騰止ムヲ窺ヒ又凡硝石精三十二匁程入レ
再ヒ沸騰セシム此硝石精ハ一滴宛入ル、也沸
騰劇シキ者也十分ニ溶解シタル初メハ烈火
ニテ蒸發ヒシメ尔后文火ニテ煉也手ヲ止メス

攪動シ冷ルニ至テ膠固スルヲ度トス○但シド
口ノニ成テ后ハ湯煉スヘシ

○海塩精

炙塩 百四十匁 綠荖油 卅二匁 水 九十六匁

製法硝石精ニ全シ尤モ受ケ德利ヲ水ニ浸シ置
也

○硝砂精製方

硝砂 八十匁 水 四百匁 石灰 百六匁

右三味德利ニ入レ極文火ニテ燒キ列葛魁馬ニ
テ引也○初メ受ケ瓶ニ水八十匁入レ其水ニ墨

ヲ以テ印ヲ附ケ其水ヲ捨テ硝砂精墨ノ印ノ処
迄トシタル最上ノ品トナス其後別ノ瓶ヲ以テ
又列也○但シ石灰ノ宜シキ程精モ亦上品也
○卒昆尔製法

水銀 九十匁 綠荖 二百五十匁 塩 百匁 硝石 百匁

右先ソ緑凡ヲホウロクニテ水氣尽迄イリアケ
乳鉢エ移シ水銀ヲ交セ手早ク攪交セ水銀星見
エサルニ至リ塩百匁能クイリ乾シ消石百匁ト
合シ前ノ品ト混和シ「ハ」ド「エ」入レ砂火ニテ
焼ナリ凡長日ニテ五時許焼也則チソツピルナ

リ但シ「ハ」ド「エ」ハ備前焼ノ麩鉢ヲ以テ之ニ代
用ス○右器中ニ藥味ヲ入レ之ニ覆フニ平常
ノ皿ヲ以テシ空隙ヲ塞スルニモニ寸程空隙ヲ残シ置
キ悪氣蒸発スルヲ
見テ悉ク塗塞ス
○カロメル製方

右水銀九十匁出未アガリタルソツピルニ又水
銀七十匁ヲ加工乳鉢ニテ丁寧ニ研和シ水銀星
ノ見エサルニ至リイリ塩十匁許ヲ加へ「ハ」ド
少へ入レ砂火ニテ焼ナリ空隙ノ塗塞ハソツピ
ルヨリ嚴重ニスへシ○焼ク「ハ」大畧四五時ニ
シテ蓋ヲ取り見レハ器ノ内面ニ留着スルナリ

○此蓋正中ニ着クハ則ケ跡ヨリ入レタル水銀
ニシテ卒昆也

○赤汞

水銀 欠三十 硝石精 大畧五十分
但ニ分量ハ必
及ハス水銀

落解スルヲ
度トス

右落解シタル右硬ク煮熬シ水氣ヲ去ルヲ度ト

シ蓋ヲ覆ヒ燒ナリ○砂火ニテ燒ヘシ火候ハ平

等汞一升ヲ燒ニト欲セハ大畧四時許

○福弗滿製方

燒酒 一件 德利ニ入レレトルニテ七合許蒸餾

シ又再蒸餾シ六合許ヲ取り○右ノ六合ニ剥為

亞斯二百匁ヲ如エ一夜浸置右一夜放浸スル片

ハ瓶底ハ五匁斗燒酒変メ水トナル其水ヲ去リ

上浮シタル銳烈ノ燒酒ヲ取り又レトルトニテ

五合程引右五合ノアルコイルニツニ分テ五夕

ノアルコイルニ目方等分ノ硫黃精或ハ綠丸油

ヲ合シ一夜浸シ置翌日又德利ニ入レレトルト

ニテ二合程引取りタルナリ 則ケアリ 右二合ノ

アリテルニ先キニ分テ置キタルニ合五匁ノア

ルニテ又如エ振盪シ貯フ 則ケ福弗 〇但シ

硫黄精或ハ緑凡油ニテモ加フル片一滴宛注意
ノ入ルヘシ

○金硫黄製方

生石灰三百五十匁 剥篤垂斯二百 水三升五合

右三味一同ニ鉄釜ニテ小半時許煮テ再三瀝過
シ塗查ナキニ至リアニチモニ一七十匁硫黄華百
二十匁ヲ加エ鉄釜ニテ煮ル一凡小半時ニノ溶
和スルニ至リ丁寧ニ瀝過シ糟ナキニ至リ大畧
十匁ノ硝石精ヲ十滴或ハ廿滴宛徐々ニ入ルレ
ハ則其水赤色トナル也○右赤色ノ水ヲ布ニテ

瀝シ水干スル也則チ金硫黄ナリ

○甘消石精

アルコール百匁 硝石精 廿匁

右アルコールニ硝石精極少許宛加エ一夜振盪
シ置キレトルトニテ引ナリ凡百十匁引取ル則
チ甘硝石精也○此甘硝石精ニマク子シヤ適宜
ヲ入レ又引取レハ其品上等ト謂フヘシ但シ火
弱クナスヘシホ
アルコール等皆相全シ

○緑凡精

油一匁 水八匁位

○メタールサフラン

アンチモニー十六匁

硝石 廿四匁

右土鍋ニテ焼ナリ○先ツ空鍋ヲ火上シ一七位
宛入レ焼ナリ火候ハ微火ニスヘシ○沸騰止ム
ヲ度トナシ下火ス○其末ヲ土鍋ニ入レ熱湯ニ
テ再三洗浴シ微火ニテ乾燥ス

○アルカロツチサシ

メタールサフラン 八匁

緑茶油 十六匁

食塩 廿四匁

雨水 二十二匁

右合和シコルフニ入レ微火ニ上セ時々攪交セ

シムル一六時ニテ瀘過シ留マリタル糟ヲ取り
ソレニ四十滴ノ熱湯ヲ加エトカシ静定シ灰白
ノ渣ヲ取りポットアスヲ水ニトカシ洗フテ上
水ヲ流シ是ヲ静定シ貯フ

○吐酒石

アルカロツチサシ 九匁

硝石 八匁

一書ニセテアリ何
レカ是ナル我後考
フ候ワ

水 四百八十匁

右合シ土鍋ニ入レ微火ニ上セ煮ル一一時斗リ
尽ク溶解スルヲ紙ニテ瀘シ其液ヲ取り又煮テ
上面膜ヲ結フ更ニ微火ニテ次第ニ苾ヲ結ハシ

メ其芭ヲ取りテ末トナシ貯フ

○薄荷油製法

薄荷葉 粗剉者一斤 食塩 二合許

右適宜ノ水ニ浸ス_一一夜翌日蒸餾罐ニ掛ケ尋常ノ蒸餾ノ如クスレハ油一処ニ凝芭ノ薄荷精水ノ上面ニ浮フナリ其時_一シケ_一ガラヌヲ以テ瀘シ分テ油ヲ取テ硝子瓶ニ收メ貯フ日ヲ經ルニ從テ凝固ノ揮發ノ勢ヒ猛烈トナルナリ

注ニ曰ク塩水ハ尋常水ヨリ重キ_一十度故ニ蒸餾スル_一油類ハ_一處ニ_一固着スル_一者ナリ

○ロードソイケル之方

唐土 十匁 蒸餾醋 百匁

右醋中ニ唐土ヲ入ルレハ忽テ沸騰スルナリソレヲ一夜放冷シ翌日土鍋ニ入レ文火ニテ徐ニ煮ツノ結芭膜ノ上面ニ張ルヲ度トシ火ヨリ下シ放冷シ而後上面ノ醋ヲ捨テ陰乾シ貯フ

○マグ子シア之方

硫酸苦土 即チ舍利百匁 半炭酸加里 尋常剉百匁

右一味宛別ニ熱湯ニ溶解シ熱ニ乘シテ混和シナガラ手ヲ住メス攪拌シ少時沉澱シ上清ヲ去

リ熱湯ヲ加工又沈澱セシメ上清ヲ去ル此ノ如
スル一三四回ニシテ剥為亞斯氣ヲ去ラシメ而
后フルイ様ノ物紙ヲシキ又上ニ黒キ紙ヲ蓋ト
ナシ陰乾スルナリ

○舍利塩之方

凝水石 = 即チ苦塩ノ下ニ凝固シタル物
和蘭 = 硫酸苦土ト云フ

右適宜ノ水ヲ文火ニ煮テ溶解シ布片ニテ漚シ
火ニ上セ上面ニ結芭膜ヲ張テ度トシ火ヨリ下
ニ放冷シ結晶セシメ而右上面ノ水ヲ去リ大ナ
ルフルイ様ノ物ニアケ陰乾ヌルナ陽火ニ曝ス
片ハ色ククナルナリ

史達利格加里製法

○新製猛烈ベーテテログセ子 極末石炭 五子ヲ合シ火ニ
上セ手ヲ傳メス攪混シ物能ク溶和シ水氣全ク蒸散スルヲ候ト火
ヲ下ニ漚メタル小白粉ニ研磨シ極末トナシ一斗宛温メタル小硝子燻ニ
内ニ密封シ貯フ

石炭ハ褐色之物ヲ良トス黒色ノ者ハ溶和難シ

用法ニ多ク方リニ云 甘草末表 右為一包一日三包ヨリ四包ニ至

酒石酸製法

剥為亞斯熱湯右ニ味等分混和シ時ニ振蕩シテ度口無ク空

氣ニ晒ス一八以上其石ヲ過シ鉄鍋或ハ土鍋ニ蒸氣シテ乾スニ
蒸氣終ニ於テ鍋底燒着セ又抹心ヲ用テ右ノ蒸氣ニ由テ出末ニ
夕々塩六固封ニ野スニ
黄金水方 丹腐劑

卒也

西霸聖塩

硝石 硫黄 各五分 右味カ末合和シ土鍋ヲ火ニカケ申赤クナリ
夕々片身カニ位々入烟リ夕々返燒セ其ヨリ取出シ土鍋ニ水ヲ
入レ火ニ掛ヨリ洋解シ右燒シ者ヲ土鍋ニ半分ニ水八分自斗リ入テ蒸
ケ夕々片紙ニ汗シ淨クナリ其上水ヲ土鍋ニシテ面膜ヲ倍テ返煮テ
亦殘ス結晶ス迄煎テ殘滓ニシテ夕々片ハ水ニシテ幾度ニ洗ヘ
乾ス則西霸聖塩ナリ

鹿角精

鹿角ヲ徳利ニ七分自入シテシニセ始メ火ニシテ烟リクニ
ヨリ火ヲ強クナリ精油ニ出ナリ精油ト分食ハシケリ

鹿角天麻

がましく入るハ油精ト云ナリ

川魚の類